

算数 (以下で引用している問題はすべて 2024 年度前期の問題です。)

(あ) 計算力をしっかり身につけてください。いつも出題するような計算問題を速く正確に行えるよう、日頃からよく練習しておいてください。やみくもに計算するのではなく、計算を工夫することでより速く正確に行えるよう心がけてください。

問題 1 の(1)、(2)で基本的な計算の力を問いましたが、多くの受験生が取りこぼしなく高得点をとることができていました。

(い) つるかめ算、和差算やニュートン算といわれるような、解き方の筋道に一定の定石のある問題も出題することがあります。

問題 1 の(3)、問題 2 の(2)、問題 3 の(1)のような問題で、計算を間違えたり問題の意味を取り違えたりしてしまうと、後半の問題で挽回するのが難しくなります。目新しさはなくても、限られた時間内にきちんと解答することは決して簡単なことではありません。よく準備しておいてください。

(う) 割合の問題の考え方は、小学校の算数の中でもきわめて大切なものです。速さの問題などを通して、割合の考え方をしっかりと身につけてほしいと思います。

問題 4 が速さの問題でした。みちのりや速さの比を用いて考えていくという内容であり、比の考え方をしっかりと身につけていることが必要であったことは例年の出題と同様です。問題の状況を理解し、順をおって丁寧に考えていくことが大切です。ダイアグラムなどの図を利用して、問題の状況とその時の位置や速さといった情報を整理しながら完答できるような準備をしてきてください。速さの問題に取り組む中で、このように状況を整理し、比を利用して考える練習を積んできてくれることを期待します。

(え) 式を書くことによって、考え方の筋道を整理していくことができます。日頃から答だけではなく式を書くように心がけてください。途中の式や考え方

を書く問題を出題することもあります。

- (お) 図形の問題では様々な見方ができることが大切です。問題の図にかかれていないことがらを自分で補って考えることができるように心がけてください。

問題2の(1)は台形上の一边を点 P が動く問題でした。状況に合わせて自分で図をかいて長さや補助線をかき入れていく練習をおこたらないようにしてください。

問題3の(2)はサイコロの展開図に目をかき入れる問題でした。頂点に名前を付けて対応関係を明らかにしていくことで、目の位置や向きを間違えずにかき入れることができます。なんとなくのイメージだけではなく、頂点や辺の位置を正確にとらえる意識をもってほしいと思います。

- (か) 問題に応じて、臨機応変にいろいろと工夫することは大事なことです。

問題5は図形のかき方のルールを通して数の性質を問う問題でした。一見すると図形の問題に見えますが、具体的な数で実験してみて、数の性質とどのように関わっているかを見出すことが必要な問題でした。問題に示されたルールを正確に理解することは、それほど簡単ではありません。普段から問題文をしっかりと読む経験を積んでください。

問題6は光の反射に関する問題でした。空間内での光の経路を、図3に示すように各方向から見た図を考えることで、平面図形に直して考えることができます。空間図形を考えるときは、このように平面図形に直して考えることも有効です。

また、日頃から一度解いた問題でも、どうすればもっと上手に解くことができるかを考える習慣をつけましょう。

- (き) 後期日程では前期と同様の出題形式ですが、前期より試験時間が10分長い分、じっくり考えてもらう問題も出題します。